

岐阜市柳戸地区におけるミシシippアカミミガメの野外繁殖の確認例

楠田 哲士^{1,2}・原口 旬美²・吉川 晶子^{1,3}・安積 修平¹・加古 智哉¹

¹ 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室

² 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター

³ 現所属：384-0804 長野県小諸市丁311 小諸市動物園

Cases of wild breeding of red eared slider turtle (*Trachemys scripta elegans*) at the Gifu University

By Satoshi Kusuda^{1,2}, Kumi Haraguchi², Akiko Yoshikawa¹, Syuhei Asaka¹, and Tomoya Kako¹

¹ Laboratory of Animal Reproduction, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University,
1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

² Research Center for Wildlife Management, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University,
1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

³ Recent address: Komoro City Zoo, 311 Tei, Komoro, Nagano 384-0804, Japan

アカミミガメ (*Trachemys scripta*) の1亜種である北米原産のミシシippアカミミガメ (*T. s. elegans*) は、現在、日本各地の河川や湖沼、ため池などで多数確認され、外来生物のひとつとして問題視されている。ミシシippアカミミガメは、国際自然保護連合 (IUCN) により2000年に「世界の侵略的外来種ワースト100」に、また日本生態学会により2002年に「日本の侵略的外来種ワースト100」に選定されている。2005年には環境省が、生態系に悪影響を及ぼしうることから、適切な取扱いについて理解と協力をお願いする生物として、要注意外来生物に指定した。ミシシippアカミミガメは全国的に定着していると考えられ、特に在来のカメ類との生息環境の競合や、その他の水棲動植物への悪影響が懸念されているが、実態については不明な点が多い。

野外でのミシシippアカミミガメの増加は、個人飼育者等による遺棄や非意図的な逸走に端を発し、それらの個体が野外で累代繁殖していることはほぼ間違いないと思われ

る。ミシシippアカミミガメの野外繁殖は、主に捕獲による実態調査でミシシippアカミミガメが多数見つかったことや、その幼体が発見されていること (岡田他, 2005)、あるいは解剖により卵殻卵を保有する個体が発見されていること (谷口・亀崎, 2010) などから推察されているが、野外での実際の繁殖の証拠 (特に産卵中の目撃や産卵巣の発見) はほとんど報告例がない。これまでに、石川県金沢市の河北潟において、哺乳類に掘り返されたと思われるアカミミガメの産卵巣が、水路の土手沿いの水面から3~4 mの場所で発見され、無傷に残っていた1卵を人工的に孵卵した結果、本種と同定された例が報告されている (野田, 2004)。

著者らは、岐阜大学構内において、これまでに4例の野外繁殖例を確認したので、その発見状況について報告する。2例は、産卵中の個体を発見した例で、他の2例は産卵巣から幼体が這い出すところを発見した例である。



図1. 岐阜大学構内でのミシシippアカミミガメの野外繁殖の発見例1. (a) 産卵後のミシシippアカミミガメ, 2004年5月11日, (b) 産卵場所, (c) 回収した卵, (d) 孵化途中の幼体, 2004年8月15日に孵化開始.



図2. 岐阜大学構内でのミシシippアカミミガメの野外繁殖の発見例2. (a) 産卵中のミシシippアカミミガメ, 2009年6月17日, (b) 産卵場所, (c) 土中の卵, (d) 回収した卵, 2009年9月17日孵化開始.

発見例1

2004年5月11日8時47分, 構内駐輪場横の雑草地でミシシippアカミミガメの大型個体(甲長等未計測)が, 産卵直後と思われる状態で発見された(図1). 産卵巣内には9卵あり, すべてを回収し孵卵した結果, 同年8月15日に孵化が始まり, 5匹が生まれた.

発見例2

2009年6月17日9時6分, 構内の附属施設(野生動物管理学研究センター)の建物横の雑草地でミシシippアカミミガメの大型個体

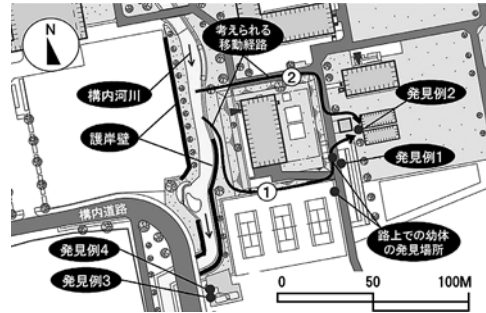


図3. 岐阜大学構内でのミシシippアカミミガメの野外繁殖の発見場所. 発見例1と2は産卵中の個体の発見場所(2004年, 2009年)で, 構内河川からの最短距離は2経路とも約150 m. 発見例3と4は自然条件下の造成池エリアでの孵化幼体の這い出し中の発見場所(2011年). 路上での発見幼体は生体と交通事故死体(2011年).

(甲長等未計測)が産卵中に発見された(図2). 9時28分の確認時には, 土の埋め戻し行動がほぼ終了していた. 同日夕方に掘り返したところ, 16時24分に土中から10卵が発見された. すべてを回収し孵卵した結果, 同年9月17日に孵化が始まり, 9匹が生まれた.

構内河川(発見例1と2に最も近い場所で川幅8.4 m)では, 例年ミシシippアカミミガメの大型個体が多数見られていたことから, 産卵した個体はそこから移動してきたものと考えられた. 構内河川の一部は護岸整備されており, また産卵場所までの直線経路中央には, 高低差3 mの急斜面の丘があるため, 産卵個体が移動したと考えられる経路は最短で2経路あった(図3). 構内河川から産卵場所までの距離は2経路とも約150 mであった.

発見例3

2011年9月20日16時頃, 構内の自然条件下の造成池(約90 m²をフェンスで囲った飼育場所)のエリア内で, すでに開口していた2つの産卵巣を発見した. 片方の巣内にミシシippアカミミガメの幼体2匹を発見し, また近くにいた幼体2匹を発見した.



図4. 岐阜大学構内でのミシシippアカミミガメの野外繁殖の発見例4. 産卵巣から這い出そうとしていたミシシippアカミミガメの幼体(2011年9月22日).

発見例4

2011年9月22日12時半頃、上述の造成池において、別の産卵巣から這い出そうとしていた幼体1匹を発見した(図4). 同巣内に8匹を確認し、巣の近くにいた1匹を発見して、計10匹の幼体を回収した. この造成池エリアでは、構内河川および構外の周辺河川から調査研究用に捕獲した多数のミシシippアカミミガメを、2010年10月4日から飼育していたため、これらの個体が産卵していたと思われる.

岐阜大学構内では、発見例1と2に近い場所で、ほぼ毎年ミシシippアカミミガメの幼体(生体や車に轢かれたと思われる死体)が目撃されてきた. これまでの詳細な記録は残っていなかったが、最近では、2011年5月12日に、車に轢かれたと思われる幼体の死体1匹(背甲長31 mm)と同年5月25日に幼体の生体1匹(背甲長32 mm)を、筆者らが発見し回収している(図3).

構内河川は、学外の一級河川(新堀川)へと接続しているが、ステンレス柵で仕切られている. 柵は幅30 mm, 縦430 mm, 厚み75

mmの格子状であることから、構内で孵化したミシシippアカミミガメの幼体は、容易に移動できる. 構内での繁殖が明らかになったことから、少なくとも構内での繁殖を抑制するための方策を検討中である.

河川等での捕獲による生息実態調査と共に、これらの発見例の情報を蓄積していくことで、ミシシippアカミミガメの野外での繁殖場所や繁殖生態が徐々に明らかになっていくと思われる. 最近では、淡水棲カメ類(ミシシippアカミミガメ含む)において野外での産卵期を調べるために、産卵に関する情報を広く市民から収集する試みが始められている(亀崎・谷口, 2011). このような調査の蓄積からも、ミシシippアカミミガメや他の淡水棲カメ類の野外繁殖の実態について、全国的に全容が明らかになっていくことを期待したい.

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、岐阜大学施設環境部施設整備課にご協力を頂いた. なお本稿の内容の一部は、平成23年度岐阜大学活性化経費(地域連携:一般)を受けて実施された.

引用文献

- 亀崎直樹・谷口真理. 2011. 亀卵記録について. 亀楽 2: 10-12.
- 野田英樹. 2004. 河北潟におけるアカミミガメ野外繁殖. 河北潟総合研究 7: 17-19.
- 岡田夕季・矢部隆・山田智子・小林浩之・前澤勝典・織田銃一. 2005. 三河地方西部における淡水産カメ類の分布. 矢作川研究 9: 5-17.
- 谷口真理・亀崎直樹. 2010. 大阪平野淀川支流の船橋川に生息するカメ類. 爬虫両棲類学会報 2010(2): 105-110.